

昼休み県民集会

生存権を守るの「私」だ

別役 美佐

「介護保険制度が始まり16年たちました。この制度は、3年に1度の改正が行われており、改正のたびに悪くなっている。特に、

70名が参加した8.15昼休み県民集会



「改悪」の実態が次々に語られました。また、「命の平等」を掲げて「無料低額診療」に取り組んでいる潮江診療所でも、2016年度に診療報酬が改定されたことで在宅診療（在宅医療の経



営の往となる報酬体系が見直され、往診先が「自宅」か「施設」なのか、施設のどこに住んでるかという「効率性」だけで点数が細分化され、引き下げられた）に大きな影響が出てきている実態が明るみに語られました。

「介護予防・日常生活支援事業」が始まります。各市町村での取り組みを、鶴の目鷹の目で見ていきたいと思います。

「社会保険費削減は財源が無いからではありません。集め方、使い方が問題です」

オスプレイ一機は、150億。「恐怖と不安」は右肩上がり。平和的生存権を守り、取り戻すのは「私」だ。

デイと福祉用具のレンタルで、去年3月までは、自己負担は一万五千元だったが、改正で二割負担となり、三万円です。また、借金返済で土地を売った影響で介護保険に係わる自己負担が二割となると同時に、介護保険料や医療保険の負担、税金関係等さまざまなものに波及し大幅な負担増となり、デイサービス回数も減らしました。」等、改正という名のもとに、実施されている

が細分化され、引き下げられている実態が明るみに語られました。暑い陽射しの中での集会でしたが、高知医療生協専務理事の今井好一さん、ケアマネの畑山八重さんの話に熱心に耳を傾けました。

温泉昼食会のご案内

日時 11月9日(水) 10:30 ~
場所 三翠園



望年会・芸能祭のお知らせ
日時 12月4日(日) 14:00 ~
場所 高知城ホール

「私の楽しみ」

退職2年目 井上 芳史

私は小学校の頃から本を読むのが嫌いでした。クリスマスプレゼントに本を買ってもらい2、3ページ読んではそのらに放りっぱなし、親からは買ったのに読みなさいと怒られていました。小中学校の夏休みの宿題に読書感想文がありました。私は本のあらすじや他の作家からの一言などの一部を書き写し、この箇所が感動したなどと書いていました。少年サンデーやマガジンなどまんが雑誌はよく読んでいました。

16歳の頃に病気で目が悪くなり、普通の文字が読めないために点字で学習するようになりました。

点字の一文字一文字を読むのが精いっぱい、さらに読書から遠ざかっていきました。

本ぎらいな私が50歳頃に出会ったのがデジタル音訳本でした。ICレコーダーやIポットなどにダウンロードして、会

趣味悠々

と会の合間に聞き始めたのです。最初に読んだのは荻原浩さんの本だったと思います。コミカルに表現した人間描写、イヤホンで聞きながら笑いそうになるのをこらえたものでした。映画化されて話題の横山秀夫さんの「64」（録音時間24時間）などは2、3年ほど前に読んだことでした。

視覚障害者の読書環境はパソコンが普及されることによって変わってきました。以前は点字図書館に電話して宮部みゆきさんの本はどんなのがありますかと尋ねたものでした。今は全国視覚障害者支援情報ネットワークがあり、HPにアクセスして著者名や書籍名を入力すると簡単に検索できます。全国のボランティアの方が音訳し、きちんと校正し

HPにアップされます。音訳本が重複されることなく効率よくアップされています。

「羊と鋼の森」なども話題になった時にはアップされました。

国語の教科書に出てくるような作家の本を読むのもよいのですが、自分に合った作家や内容に出会った時の喜び、楽しく読書をする喜びを感じています。秋は会で県外に行く機会が多く、高速バス内で読書することを今から楽しみにしています。

